

# 主体的な学びにつながる「家庭科の学習が好きになる授業」をめざして

東濃教育事務所

## 子供の『楽しいPoint』

めざすはここ！



「自分の手」で「仲間と共に」  
生活を工夫し創造できた！を実感する

- ★「自分の手で」できた！課題を解決できた！
- ★実習・製作・交流で新たな気付きがあった！
- ★身に付けた力を活かし、生活をよくして、家族や地域、周りの人に喜んでもらうことができた！

## そのために『3つのPoint』

- ①導入：生活、既習事項、体験等から**問題を見いだす**ことからはじめる。
  - ・生活を見つめた調査・インタビューや教師の問いによって問題を見だし、課題を設定する。
- ②追究：**課題を解決する学習過程**を意図的に繰り返す。
  - ・課題発見、検討・計画、実践活動、評価・改善、家庭実践。
  - ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせるよう促す。
  - ・「1人で」考える、じっくり作業する時間の確保。
  - ・「みんなで」対話し、協働的に解決する場の確保。
- ③終末：課題解決できた**達成感・実践の喜び**を味わい**自己の変容を実感**できるよう振り返りをする。
  - ・視点をもって振り返る。＜評価規準3観点＞

## ④学習環境と学び方

まずはここ！

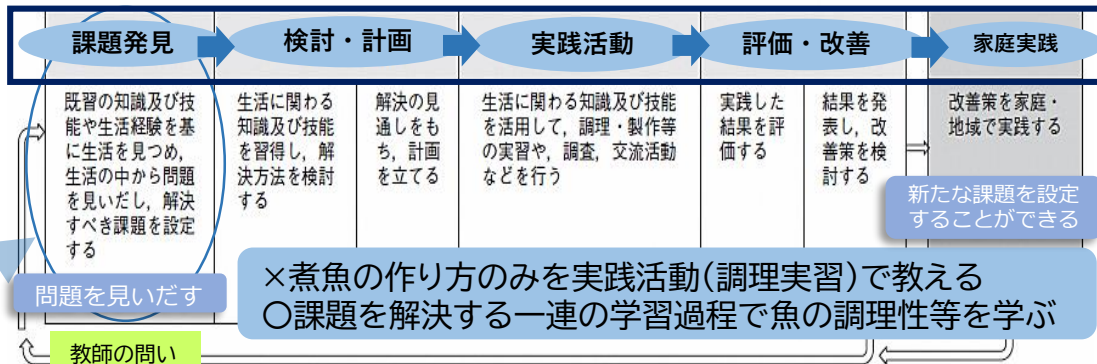


- ・事故防止の徹底（校外実習・包丁・ガス・ミシン・アイロン・アレルギー等）
- ・子供とともに「目指す授業」を考え、学習姿勢、準備・片付け、用具の扱い等のルールづくりを行い、指導し続ける。
- ・五感を駆使した学び方を大切にする。

## 《題材構成》

課題解決に向けて取り組む一連の学習過程

例) 日常食の調理 魚の調理「さばのみそ煮」を含む肉や魚の学習を行う際の題材構成の仕方



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

魚にはたんぱく質やカルシウムが多い。でも臭味が苦手です。少ししか食べない。どうしたらいいかな？成長期の体にたんぱく質が必要だ。



## 《授業例》

一連の学習過程 検討・計画 の場合

★詳細は「授業改善」→「教科指導」

- ① 課題 臭みの強い魚を美味しく食べるにはどんな工夫があるか

★個別最適な学び

仲間の考えが知りたい

★協働的な学び

- ②既習の肉の性質と魚を比較する

「たんぱく質が多い肉や魚は共通していることが多いから『たんぱく質の熱凝固』や『臭みをとる』工夫の仕方も似ているな。」  
「タブレットで魚の種類を調べてみようかな」

仲間と対話『魚を美味しく食べるには』

「私は〇〇さんの考えを聞いて白身魚は熱を通すとふんわりして柔らかくなるのがわかった。和食の献立にして煮魚を作るなら白身がいいな。赤身と白身の違いにも着目して工夫をしたい。」

見方・考え方を働かせる

- ③学習内容の確実な定着+異なる考え方が組み合わせりよりよい学びを生み出す

「工夫の仕方がわかった！」「みんなで学んで楽しかった！」  
魚は体にいいけど臭味が苦手だった。赤身と白身によって調理上の性質が違う。みそやしょうがで、臭味を取って、肉と同じでたんぱく質の熱凝固でうまみを閉じ込めるといいことがわかった。〇〇さんの考えを聞いたら、これまでの学習を生かして和食の良さ今まで繋げて魚の献立を考えていた。工夫して調理し、成長期に必要な栄養をしっかりと摂りたい。今度、家で魚の献立を作ってみたい。

見方・考え方を広げ深める

主体的・対話的で深い学びの姿